

第4回検討会を踏まえた今後の対応(案)について

平成29年2月

第4回検討会を踏まえた今後の対応（案）について

ご意見	今後の対応（案）	備考
■平成 27 年度モニタリング調査結果（速報）等について		
①モニタリング調査では、水位や地形といった「うつわ」もモニタリングする必要がある。	・モニタリング計画に基づき、3 年に 1 回もしくは大出水後に堆積状況を計測する。さらに、焼山地区では連続水位（H27～）、早出川では横断測量とグリーンレーザ測量（H28）など特性に応じて追加実施している。	資料 6 阿賀野川自然再生計画書（案）p. 5-2、 資料 4 早出川の整備結果報告
②裸地の遷移過程では、ヤナギの定着に注目するとよい。	・ヤナギの定着状況をモニタリング時に注視する。	資料 2 平成 28 年度モニタリング結果報告
■早出川の今後の整備について		
①早出川捷水路整備時の巨石を用いた環境改善策について、その後の状況を把握しておくといよい。	・現地確認したところ、巨石は存置していたが、融雪出水位以上となる低水護岸上部に土砂が堆積しヤナギが定着していた。水中は、浅くなっているが、ヤナギの根の植生カバーにより魚類の生息場となっていた。	
②ダムからの土砂放流が伴わないと、この実験をうまく活かせないのではないか。	・まずは、現在の流砂環境のもとで、どこまで河川環境が応答・改善するかを調査・研究していく。	資料 4 早出川の整備結果報告
■阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について		
①ワンドの指標種にウケクチウグイを設定しているが、他の貴重種を設定しなくてよいか再検討してはどうか。例、ジュズカケハゼ、カワヤツメ。	・指標種の選定では、その場に依存する特徴的な種類から選んでおり、貴重種かそうでないかは基準としていない。例、ウケクチウグイは阿賀野川水系などにのみ生息する特別な種として選定した結果、貴重種であった。 ・ジュズカケハゼ等もワンドを利用するが、上記理由により、「多様な魚類」の一種として生息を期待している。	資料 5 阿賀野川自然再生計画書（案）の更新について
②ニホンイトヨは阿賀野川では 10 年近く確認されておらず今後の確認は難しいのではないか。	・ニホンイトヨについては、ご指摘の通り、再生計画立案時よりも、かなり稀少性が高まっているため、現実的にはワンドでの確認は難しいと考えられる。そのため、ワンドの目標像は変えないものの、ニホンイトヨを「指標種」から「対象種」へとワンランク下げることにはしたい。	
■阿賀野川での自然再生の取り組みについて		
①阿賀野川自然再生という（国管理の）河川だけの取り組みだけでは、足りないのではないか。「水の一体化」という観点で、県や農業部門等と一緒に考えていく必要があるのではないか。それは、おいては、防災意識の関心向上にも繋がる。	・現在、越後平野における生態系ネットワークに関する検討に向け関係する機関の担当者との連絡会に参加している。	